

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名			
○保護者評価実施期間	R7年 2月 17日		～ R7年 3月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数) 21
○従業者評価実施期間	R7年 3月 10日		～ R7年 3月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 3月 17日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	作業療法士、言語聴覚士、保育士、児童指導員など多職種が勤務している。それぞれの視点から子どもたちの行動の理由を考え、チームで共有できる。	毎朝、振り返りと打ち合わせを行う。送迎の座席や降ろす順番、受け入れの職員の動きなど細かいところまで確認を行う。子どもの様子に合わせて、その日や次の対応もチームで意見を出し合う。	チームで要因分析を行う時間を設け、個別支援計画に反映させる
2	現状に満足せずに、新しい取り組みをしている	県の事業を積極的に活用している。今年度は児童発達支援センター等機能強化事業を活用し、登録児以外のお子さんや学校の支援を行いました。また、ペアレントメンターさんの相談会も行い、保護者さん同士が関わる機会を設けました。	保護者さん同士の関りが持てる機会を地域全体で作っていきたい。
3	学校、教育委員会など地域との関り、支援を積極的に行っている	保育所等訪問支援、教育委員会の就学相談の活用など地域との関りを大切にしている。また、県の事業も活用しながら、登録児だけではなく、地域の児童やご家族にも関わるようにしている。	次年度はもっと地域支援を増やしていきたい

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援多機能型で、幼児から高校生までライフステージに合わせて関わるができるが、その分、じっくり時間が取れないことも多い。	人員が不足している	人員の確保！ 児童の年齢や状況に応じて、関り方を変えていく。定期利用にこだわらず、困り感にスポットを当てられるような支援を行う。
2	職員と保護者さん、または保護者さん同士の関りなどの時間の確保や機会が少ない	時間の確保が難しい	作業や活動を介して気軽に集まれる時間を設ける。保護者のみが参加する機会を設ける。
3	災害や安全管理などの訓練の周知ができていない	周知方法が定まっていない	面談やSNSを活用して、指針、マニュアル、研修や訓練の実施など丁寧に周知していく。